

PRESS RELEASE

株式会社 矢野経済研究所

〒164 - 8620 東京都中野区本町 2-46-2

中野坂上セントラルビル

代表取締役社長 石澤 一未

住宅用換気システム市場の展望と戦略2005

調査要綱

矢野経済研究所は、2003年7月に建築基準法の改正により義務化となった機械換気（常時換気機能を持つ住宅用換気システム）の市場動向について2003年10月に引き続き2度目の調査を行った。

調査対象：住宅用換気システムメーカー 11社 ハウスメーカー・ガス会社 8社

調査期間：2004年12月～2005年2月

調査方法：専門研究員による上記各社への面接取材調査

調査結果サマリー

2003年度の住宅用換気システムの市場規模は468億円（対前年度比106.2%増）、2004年度は31.6%増の616億円と推定される。2005年度以降は微増での推移と予想される。

市場は総合換気メーカーを中心に専門換気メーカー、ガス会社、ハウスメーカー等で形成。総合換気メーカーは同時給排気型換気扇の品揃えを強化、省エネ化、高機能化。一方、専門換気メーカーはハウスメーカーへの直販を強化。

市場での問題点は、住宅取得者の約半分が不満を持つこと、不満を持つ人の54%が「冬の寒さ」を理由にあげている。

今後は、居住空間の空気質の改善、消費者サイドに立った商品開発がマーケット拡大へのポイントとなる。

資料体裁

発刊日 : 2005年2月24日

定 価 : 126,000円（消費税込）

体 裁 : A4判、207頁

*この件に関するお問い合わせは

(株)矢野経済研究所 営業企画部 広報宣伝グループ

中村

TEL 03-5371-6912

FAX 03-5371-6970

(株)矢野経済研究所 生活産業調査本部

熊本

TEL 06-6266-1383

FAX 06-6266-1389

調査内容の解説

< 2003年度の住宅用換気システムの市場規模は468億円（対前年度比106.2%増）、2004年度は31.6%増の616億円と推定される。2005年度以降は微増での推移と予想される >

- ・ 2003年度の住宅用換気システム市場規模は468億円、機械換気の義務化を追い風に大きく拡大。
- ・ 2004年度は616億円と2桁の伸びとなるが、機械換気の義務化による需要拡大部分をほぼ吸収、2005年以降は微増から横這いとなる見込。

< 住宅用換気システム市場は総合換気メーカーを中心に専門換気メーカー、ガス会社、ハウスメーカー等で形成 >

- ・ 2003年度、2004年度前半と新規参入企業が増加したが、2004年度後半より参入企業は減少、総合換気メーカー、専門換気メーカー、ガス会社、ハウスメーカーなどが市場を構成、比較的安定期に入ってきている。総合換気メーカーが総合力で市場を牽引、専門換気メーカーが自社の特徴を生かした換気システムへの取組を行っている。

< 総合換気メーカーは同時給排気型換気扇の品揃えを強化、省エネ化、高機能化。一方、専門換気メーカーはハウスメーカーへの直販を強化。 >

- ・ 総合換気メーカーは工務店やハウビルダーをターゲットに主力商品である同時給排気型換気扇の品揃えを強化、省エネ（ランニングコスト削減）、吸気フィルターの高機能化、デザイン重視、低価格への取組を推進。
- ・ 一方、専門換気メーカーはハウスメーカーへの直販を強化。商品開発段階からの参画など、これまでの販売実績、技術力、商品開発力による差別化提案を実施。

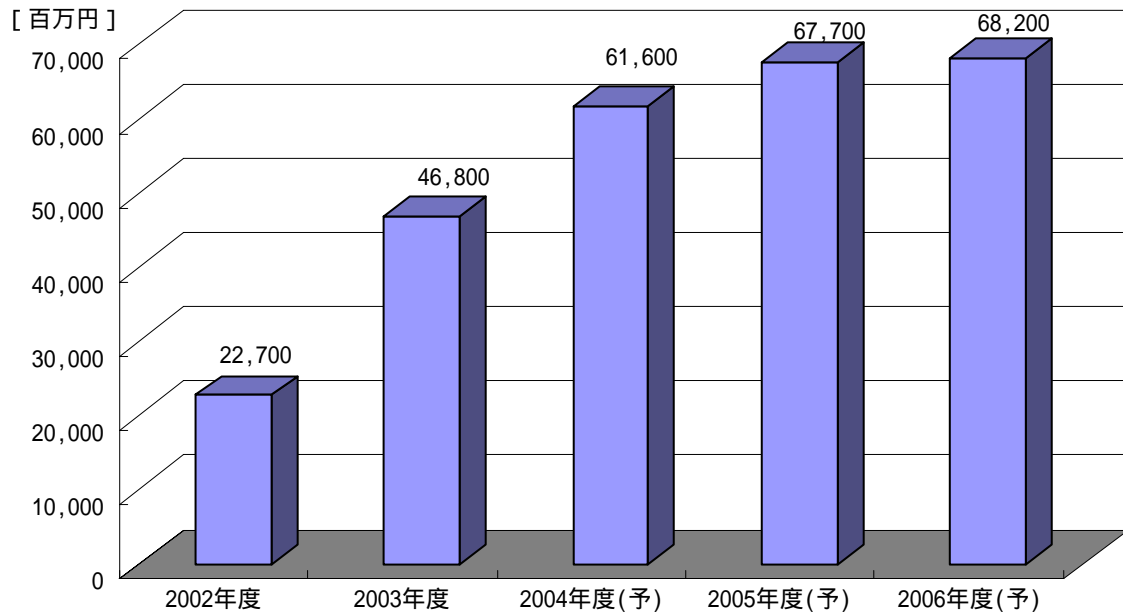
< 市場での問題点は、住宅取得者の約半分が不満を持つこと、不満を持つ人の54%が「冬期の寒さ」を理由にあげている >

- ・ 今回の調査では、住宅取得者の約半数が換気に対する不満を感じている。不満点としては、「冬期での寒さ（54.0%）」、「音のうるささ（38.0%）」に加え、「きちんと換気が行われているかどうかがよくわからない（42.0%）」などがあげられている。寒さと音のうるささについては、安価で取付が簡単なパイプファンの採用が機械換気義務化前後から大きく増加したことが要因としてあげられる。また、換気システムに対する説明の不十分さ、メンテナンスへの対応も要望としてあげられている。

< 今後は、居住空間の空気質の改善、消費者サイドに立った商品開発がマーケット拡大へのポイントとなる >

- ・ パイプファンの採用など消費者サイドで起こっている問題の解決策として総合換気メーカーでは、第1種換気や熱交換型でのコストパフォーマンスの高さをPRすることにより居住空間の空気質の改善を目指している。一方、専門換気メーカーもダクトタイプを推奨することにより良い環境を提供できる状況をつくろうとしている。基本的にはコストが居住空間での空気質の改善へのネックとなっているが、消費者ニーズを捉え、消費者サイドに立った商品開発を進めることが今後のマーケット拡大につながるという。
- ・ 機械換気の義務化による需要拡大部分がほぼ吸収された市場の中で、さらなる市場拡大を図っていくためには、消費者に快適な居住空間を提供するための空気質の改善による単価アップ、リフォームなどへの対応による需要の拡大などが必要となる。

住宅用換気システムの市場規模予測



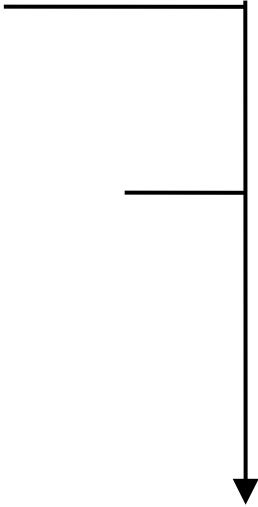
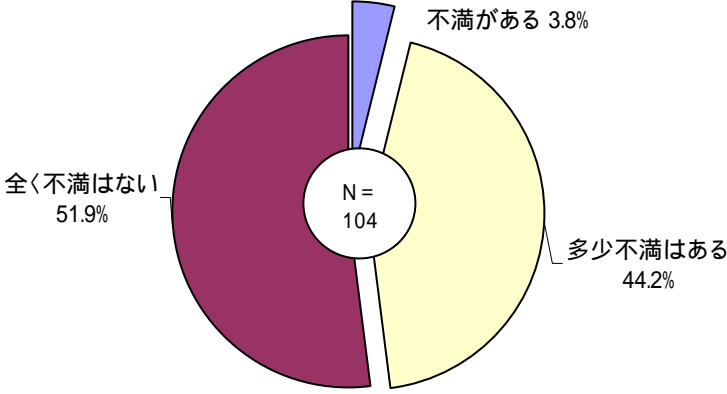
(単位：百万円、%)

	2002年度	2003年度	2004年度(予)	2005年度(予)	2006年度(予)
市場規模	22,700	46,800	61,600	67,700	68,200
前年比	-	206.2%	131.6%	109.9%	100.7%

(矢野経済研究所 推計値)

住宅用換気システムについての不満点

換気システムについての不満点について



換気システムの不満点 (N = 50)

